

小学校理科におけるキャリア教育の実践と課題

—小学校5年生「植物の発芽と成長」における職業人との交流から—

○久保田善彦^A, 塚目瑞穂^B, 榎本和生^C
 KUBOTA Yoshihiko, TUKAME Mizuho, ENOMOTO Kazuo
 上越教育大学^A, 東京都足立区弘道小学校^B, 多摩美術大学^C

【キーワード】 キャリア教育, コンセプトマップ, 植物の発芽と成長, 小学校5年生

1, はじめに

2004年は「キャリア教育」元年とされる。キャリア教育のねらいは、すべての子どもに充実した勤労生活に移行する準備をさせることである。そのためカリキュラム全体に実社会における仕事、職業世界の情報と具体的体験活動を組み入れていくことである(Hoyt, K.B., 2005)。中央教育審議会は、キャリア教育の実施は「学校教育全体を通じて」行うべきであるとしている。しかし多くの実践報告は、「総合的な学習の時間」や「道徳」、あるいは「特別活動」での活動である。学校教育の中心である「教科教育」におけるキャリア教育のあり方を模索する必要がある。

理科教育では、鶴岡ら(1997, 2004)がキャリア教育の要素を取り入れた理科指導の研究を行っている。そこでは、科学者や技術者の営みを理解し、その職業観の育成を目指している。キャリア教育が、進路選択のために必要な力を身につけることであるならば、理科におけるキャリア教育は、科学者の営みに限定せず、学習内容に関係する職業に広げていくことも必要である。(本研究は、科学者を知る学習を否定するものではない。理科教育として、科学者の営みを知ることは重要なことと考える。)

本研究の目的は、次の二点である。第一に、小学校の理科教育におけるキャリア教育として、職業人の話を聞き学習内容と職業を結ぶ活動を実践する。第二に、その活動を評価する。

2, 研究の方法

(1) 実践の概要

調査対象校は、公立小学校5年生2クラス47名である。実施時期は、2006年6月に行った。単元「人や動物のたんじょう」の小単元「植物の発芽と成長」の授業のまとめの時間(1時間)に農業を営む方を外部講師として招き、講話および質疑を行った。

外部講師の講話内容 講話内容は次の4点にまとめることができる。①農業を営むに至った理由。②植物の発芽と成長に必要な条件(日当たり、温

度、水、肥料など)がいかにより農業に生かされているか。③農業を営むにあたっての楽しかったこと、辛かったこと。④仕事についてのメッセージ。

(2) 調査の方法

外部講師との授業の後の概念構造を調べるために、概念地図を3~4名構成のグループで描かせた。また、外部講師による講話後の感想文から、職業観や勤労観を調べた。

3, 考察と課題

(1) グループで描いた概念地図

多くの班で、既習事項である植物の成長に、農家の専門的な知識や職業上の工夫が付加されていた。このことから、理科学習のまとめにおいて外部講師からの話を聞くことは、多くが理科学習の内容に対し、職業に関する新たな知識を関連づけていことがわかる。

ただし、職業観や勤労観に関するラベルは少なく、概念地図にも位置づけられていない。また、既存の知識と外部講師の話が交わらず単線型の地図となり、それぞれが融合しない班も見られた。子どものもつ既存の概念構造に対し、外部講師の話をどのように位置づけるかを担当教師および外部講師は事前に検討する必要がある。

(2) 授業後の感想文

理科学習と外部講師の講話内容とを結びつけようとする児童は多い。児童は、職業上の知識の専門性を実感していると同時に、理科で学習する知識の限界を感じている。また、専門的知識や工夫の必要性を知ることで、職業観や勤労観の変容も見られる。更には、勤労に関する態度を自分の生活に生かそうとする児童も見られた。理科の学習内容が、職業にも有効であることを実感できる学習方略も必要である。

<参考文献>

- Hoyt, K.B. (2005): キャリア教育—歴史と未来。雇用問題研究会。
 鶴岡義彦(1997): キャリア教育・進路指導の要素を加味した理科指導, 理科の教育, 46(545).
 鶴岡義彦(2004): キャリア教育から見た理科教育の課題, 理科の教育, 53(618).